

第2回 安田町庁舎建設検討委員会 会議録

日時 平成28年11月24日(木)午前10時00分から
場所 安田町文化センター 2階講座室
議題 1. 第1回委員会の内容について
2. 庁舎建設の候補地について
3. 庁舎の建設規模等について
4. その他

【配布資料】

- ・ 役場周辺平面図、航空写真
- ・ 庁舎等床面積仮試算表
- ・ 今後の庁舎建設スケジュール案
- ・ 住民アンケート案

出席委員：赤池慎吾、佐藤昭二、清岡 哲、横田信次、武内住恵夫、有岡智佐、
小松寛之、山本 真、小松憲次、太田賢三、清岡ゆう子（11人）

欠席委員：伊吹衢章、南 一寛、橋本雅史

出席アドバイザー：甲斐芳郎、原 忠、中岡誠二、西本準一、小原 忠

役場出席者：黒岩町長、南副町長、西岡総務課長、中川総務課長補佐 外

◎ 議題の進行

議題1：第1回委員会の内容について

委員長から、第1回の委員会について、それぞれのアドバイザーから指摘等があった点について口頭で内容を報告、振り返り。

議題2：庁舎建設の候補地について

総務課長補佐から資料を示しながら新庁舎の建設候補地について説明

⇒ いくつかの候補地を示したうえで検討する方法もあるが、JAと郵便局にも入居してもらうことを考慮すると、町の中心地から離れることは難しく、町としては現庁舎北側の旧安田保育所跡地及び不燃物仮置き場の土地、約3千㎡を候補地として提案したい。

アクセス道路が狭いという弱点があるが、そうした点も総合的に検討する必要があると考えている。

原アドバイザー

- ・ 建設候補地に災害履歴があるか確認を。場合によっては抑止工事が必要になる。また、大雨の出水による突発災害に対応できるのか。
- ・ 盲点だが、文化財関係があるか確認しておく必要がある。文化財が出てくると発掘調査に長期間を有することがある。
- ・ アクセス道については必須事項と考える。防災はまちづくりと直結するので、

拡幅等が絶対条件になると思う。

- ・ 小学校横の立地は、将来の有事の拠点となる可能性が高い。重機や資機材、緊急車両等も入って来られる余地を残しておくなど、予測されることには手当をしておくのが良いと思う。

⇒ 町長：県営事業により砂防ダムの事業が予定されている。

副町長：八幡宮の敷地から弥生式土器が出土した経緯について発言。

中岡アドバイザー

- ・ 南海トラフ地震対策で、全県的に応急期機能配置計画を策定しているが、安田町ではどうか。

⇒ 総務課長補佐：年度内の策定に向けて発注済み。

武内委員

- ・ 想定外の津波が来た場合についてどのように考えているか。

⇒ 町長：本来は1mでも2mでも高いところに建てられれば良いが、現在の計画では考え得る最大値の内容でやっている。

甲斐アドバイザー

- ・ 現在の庁舎はどうなるのか。

⇒ 総務課長補佐：取り壊して駐車場となる場合や、町道の付け替え敷地利用される場合が考えられる。

委員長から、各アドバイザー、委員の発言を総括し、情報が足りない部分については改めて調査等を行って報告するが、委員会として、現在の庁舎北側を候補地とする事務局案に了承いただけるか諮ったところ、委員等からの異議発言なし。

議題3：庁舎の建設規模等について

総務課長補佐から資料を示しながら新庁舎の建設規模について説明

⇒ 庁舎の建設規模は、他に拠り所がないため、総務省の起債対象事業費算定基準（H23廃止）に基づき、町役場、農協（信用・共済部門）、郵便局の職員数に応じた標準的な必要面積を算定（約2,345㎡）しており、その他防災拠点施設として、消防屯所、備蓄倉庫、避難室等（580㎡）、計3,000㎡程度と試算している。

また、想定される建築費用として、㎡当たり45万円が標準的にかかるということで、15億円程度を現時点で見込んでいる。

清岡哲委員

- ・ 住民にとってマストサービスが提供できればいいが、農協や郵便局の意向としてはどうなのか。農協は事務室以外に肥料置き場や倉庫も必要になってくると思うが。

⇒ 町長：入ってくれるという意向はいただいている。

山本委員

- 農協の建物自体は役場に劣らずダメ。現在話している中では、信用と保険の事務所を持って行って、将来的には経済事業は中芸集出荷場に隣接させるのが理想ではないかと考えている。私の一存ではできないが、農協内部でもそうした検討に入る予定。

甲斐アドバイザー

- この委員会は基本構想を決めていくものなので、農協や郵便局のあり方までは議論できないと思う。両者の機能の要求事項をもらうにとどめないとまとめきれない。逆の言い方をすると、農協、郵便局からも委員が出ているので、これだけは確保して欲しいというところまで出していただければ。

原アドバイザー

- 本庁舎部分と防災施設関係を分けている考え方は。
⇒ 副町長：防災施設には補助や有利な起債制度があり、切り分けできれば有利な財源の確保につながるため、分離させている。
- スペースのことを考えたときに、忘れていけないのは火災問題。市街地火災では場所が狭隘なことと木造家屋が密集していることが弱点となるし、山林火災の問題もある。
地震時には、地震火災と津波火災がある。火災に関してはソフト面では解決できないので、何らかの周りを養生するようなハード施設を造るか、次の一手を考えた方がよい。
- 砂防ダムも風水害対策がメインで、地震での土砂までは案外考えられていない。現在の建設箇所は、そうした難しい場所にあるということを理解し、ハード面で解決するしかない。付帯事項として、そういうことに留意するということは残しておいて欲しい。

清岡ゆう子委員

- 住民としては設計図ができない限り、何とも言いようがない。何階建ての建物で、何がどこに造られることになるのか。
北側の道路を挟んで不燃物を置いている土地と手前の駐車場と1つにするようだが、改良区の水路は現在も水が通っているのか、塞ぐことになるのか。
⇒ 町長：現在農業用水は通っていないが、この件は一定確認・整理が必要。
総務課長補佐：建物は概ね2階建てを想定しているが、一部3階部分ということもあり得るのではと考えている。

甲斐アドバイザー

- 今の状況は自分の家を建てる場合でいうと、敷地と予算が分かっている、なんとか家が建てられそうということが一応確認できたという発表があったと思ってもらえれば。

小松憲次委員

- 安田町の人口が3,000人を割った中で、この人口ではこれくらいの面積のものにしなければいけないというものはあるか。
⇒ 総務課長補佐：旧総務省基準や国土交通省基準、同規模自治体の実例等があるが、こうしなければいけないというものはなく、安田町として必要な機能を実現するために必要な面積を確保していくことになる。

甲斐アドバイザー

- 今の件はとても良い議論で、今回は現状規模の職員数で今後のサービスを続けていく計画が示されているが、面積の規模をどうするのかは、この会議でどんどん意見を出して行って欲しい。

原アドバイザー

- 災害時にどういう仕事が出てくるのかは、東日本、熊本の経験である程度数値化されているが、安田町の場合は津波被害がある。また、山の部分もあるので、津波被災エリアへの対応と、山側の方の生活対応もしなければならぬ。これが2、3年続くこともあり得るが、職員の中にも来られなくなる方が出てくる可能性があり、協力自治体から応援が来るにしても、増員は考えにくい。そうすると、同じ程度の人数で通常業務をこなしながら災害対応もしなければいけないので、建物はそうした状況に対応できるように、事前に十分検討しておく必要がある。

甲斐アドバイザー

- 現代社会のインフラは、人口が減ってもなくなるわけではなく、むしろ人口一人当たりがみるインフラの量が増えることになる。つまり、人口減少と役場の仕事量に限っては、全然リンクしていない。

原アドバイザー

- 安田町はエリアがそれほど広くないが、災害の質が非常に多様。津波や土砂災害で孤立化も考えられる。そこを現在のギリギリの職員でオペレーションしていくのは無理で、余所から応援をいただく状況になると思われる。防災機能はあるに越したことはないが、それが適切かどうかは議論いただきたい。
- 人口減に応じて防災機能を減らすべきかといえば、むしろ増やさないといけない。オペレーションに行けないところに、同等のサービスを継続するのは難しいので、それらに万全に備えるためにどうするかを考えないといけない。
- 発災時は人口が多かろうが少なかろうがやるべきことは同じ。それに対する指揮命令機能が庁舎なので、庁舎はある程度ゆとりがないと機能しない。

太田委員

- 安田町の人口は減っていくが、現在計画している庁舎の規模を小さくすることはあり得ず、かえって、人口が減れば減るほど十分な防災対策等をしなければいけないと考えている。
- どのような計画を立てようとも、予算が伴わないと物事はついてこない。

- ・ 地元の議員としては、場所等については不平不満はないので、皆様の協力を得て、一日でも早く完成することを願う。

中岡アドバイザー

- ・ 資料5ページの②の防災拠点施設について、避難室・研修室という記載がある。応急期機能配置計画にも関連するが、まず町内の避難所が充足しているのか、そして今回の新庁舎に避難所の機能を持たせるのか。庁舎の規模にも関わらず、住民アンケートの中に避難所機能が必要かどうかもある。

甲斐アドバイザー

- ・ 役場の一部を避難所に使うことはお勧めできない。被災後の職員の負担は大変なものがあり、庁舎内に避難所を作ると、職員への要求が出てきてしまうので、避難所には、専門の係を置かないと運営できない。切り分けをきちんとしないと防災や事故対応に関する機能を阻害しかねない。
⇒ 委員長：庁舎としてしっかり機能させるために、避難所を庁舎に入れないという判断もあると指摘をいただいた。

原アドバイザー

- ・ 安芸市のように消防防災センターを造って、そこを避難施設とする形は十分考えられる。
- ・ 細かい議論は事務局でやって欲しい。細かいところをある程度固めたうえで委員会に持ってこないと話が進まない。この委員会で決めることは重要事項なので、ビジョンに係ることなどを議論しないといけない。

議題4：その他について

総務課長補佐から今後のスケジュール及び住民アンケート等について説明

- ⇒ 建設スケジュールとして、平成28年度内にアンケート調査及び基本計画の策定等、29年度に一部造成工事及び庁舎建設設計施工業者選定委員会の開催とプロポーザルによる業者選定、基本設計の実施、30年度に実施設計、31から32年度にかけて建築工事を行う予定であること、また、住民アンケートの素案内容及び県内の自治体の庁舎への視察研修について提案。

甲斐アドバイザー

- ・ この委員会では、基本構想はできると思うが、いわゆる基本設計のために主要になる部分の確定は事務局の方でやるのか。
- ・ 基本設計と実施設計を1つにアップしているが、基本設計1つに内蔵していくくらいでないと間に合わないのではと思う。
- ・ アンケートの11ページで、問7が重要で、この委員会でやらないといけないのは、問7の確定版かつどのレベルでそれを満足するのか。
- ・ 8番は不要。8番がないと具体的な意味が分からないのであれば、7番の説明として8番の内容を加えればよい。重要なのは、庁舎にどういう機能を期待するか。

原アドバイザー

- 7番の間を書く場合、問の順序にも気を付けた方がよい。この順序は町の考え方そのものを表している。そうした細かい点に配慮を。

委員長による会議総括後、終了